

令和 8 年度進行管理 **戦略点検シート**

◎基本政策 1 子どもたちに輝く未来をつなぐ

主要課題	No. 6	新しい時代の「学力」向上
------	-------	--------------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ●

主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。

4年後の 目指す姿	児童・生徒が、グローバル化や情報化等による社会の変化に対応するための力や、課題に向き合い、解決する力を身に付けている。
計画期間 の方向性	○グローバル社会で必要とされる能力の育成 児童・生徒が英語を実際に使う機会を増やすとともに、児童・生徒の学習意欲と英語力の向上に取り組むほか、教員の指導力を向上させることにより、「話す力」等のコミュニケーション能力の育成を図ります。 ○Society5.0時代を見据えた教育の推進 Society5.0時代の到来を見据え、個別最適な学びと協働的な学びを実現するために、ICTの効果的な活用など、教育の質の向上を図るとともに、従来の指導方法にとらわれない、新しい授業スタイルを創造します。

事業費（令和7年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で何をしたか（実績）	戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。
----------------------------	--

戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。

事業番号	事業名称	所管課	事業の持つ役割							事業費(千円)	
28	英語力向上推進事業	教育指導課	子どもたちの英語力を向上させる。							178, 158千円	
										(184, 840千円)	
			主な取組実績		単位	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)
			① 外国人英語指導員の配置		人	25	24	25	27		
			② 英検の全額補助に伴う受験者（中学校）		人	1, 950	1, 955	1, 965	2, 047		
	③ 英語体験施設（T G G）の参加校（小中学校）		校	30	30	30	30				
	④ GTEC Junior受験料全額補助に伴う受検者数（小5・6）		人	1, 498	3, 058	3, 249	3, 353				
	R5 (2023)	外国人英語指導員との交流やT G Gの参加で外国人と触れ合う機会を多く設定いたしました。また、令和5年度は小学校でGTEC Juniorを5年生にも拡大し、英語力を経年変化で測るための機会を作り、日々の授業での英語力向上を図りました。									
	R6 (2024)	GTEC Juniorの経年変化を見ると、発信する力（話す力・書く力）よりも受信する力（聞く力・読む力）の点数の微減が見られました。									
	R7 (2025)	令和6年小5時から令和7年小6時にかけて、スコアの伸びが確認できました。また、書く力については得意層と苦手層への二分化を回避すべく、今後も注視していくことが必要であることがわかりました。T G Gは身に付けた力を発揮する場として非常に効果が感じられる機会になっています。									
29	「話す力」向上プログラム事業	教育指導課	子どもたちのコミュニケーション能力を育成する。							6, 600千円	
										(6, 600千円)	
	主な取組実績										
	R5 (2023)	委託事業者が8校の小・中学校に出向き、出前授業を行うことで、児童・生徒のプレゼンテーション能力の向上を図りました。									
	R6 (2024)	区内小学校1校、中学校1校にモデル校を設置し、委託業者の出前授業や教員研修等の支援を受けながら、児童・生徒の「話す力」を向上させるための授業実践を行い、区内小・中学校の教員に公開しました。また、各校の担当教員に研修を実施しました。									
R7 (2025)	区内小学校1校、中学校1校にモデル校を設置し、生成AIを取り入れた対話型学習アプリを導入し、教科学習等で活用しました。また、一般社団法人アルバ・エデュによる対面授業と教員研修をモデル校にて1回ずつ実施しました。取組の様子は教育広報誌「きあら」に掲載しました。										

30	教育情報ネットワーク環境整備（幼・小・中）		学校運営課	子どもたちの情報活用能力を育成する。					3,555,975千円 (3,750,817千円)	
	主な取組実績									
	R5(2023)	GIGAスクール構想以前に整備された端末の更新を行いました。（児童用タブレット：2,332台、生徒用タブレット：2,681台）								
	R6(2024)	7年度にリース期間満了を迎える児童用タブレットの更新に向け、事業者からの情報収集や学校現場への状況確認を実施し、仕様の検討を行いました。また、学習系ネットワークの通信環境を分析するため、ネットワークアセスメントを実施しました。								
	R7(2025)	ネットワークアセスメント結果から、各校へ高速インターネット回線（10Gbps）の環境を整備しました。小学校の校内LAN配線規格をCAT6Aへ変更しました。GIGAスクール構想により端末の更新を行いました。（小1～5児童用タブレット：10,263台）								
31	教員研修・研究事業		教育センター	教員の資質・能力を向上させる。					16,095千円 (17,086千円)	
	主な取組実績			単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 教育課題研修参加者（延べ）			人	1,083	998	952	812		
	② 教育アドバイザー派遣（延べ）			回	191	268	280	280		
	R5(2023)	教育に求められる教師像が教員としての普遍的な資質の素地であることを踏まえ、児童・生徒の成長段階に応じて求められる役割や身に付けるべき力等を自覚し、資質の向上に努めることができるよう取り組んでいます。								
32	「Society5.0の教室」プロジェクト		教育指導課	ＩＣＴ環境を活用し、子どもたちの新たな学びを推進する。					144,259千円 (145,103千円)	
	主な取組実績			単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
32	① 「Society5.0の教室」推進委員会全体会の実施			回	3	3	3	3		
	② 「Society5.0の教室」推進委員会による実践授業			回	50	40	40	40		
	③ 「Society5.0の教室」通信の発行			回	22	23	24	23		
	R5(2023)	各学校の情報担当が最新のＩＣＴ教育の実践を学ぶことができるよう研修会を実施してきました。また、各校の実践を共有することができる仕組みを作り、日々の実践につながるようにしてきました。								
	R6(2024)	各学校の情報担当が最新のＩＣＴ教育の情報や実践を学ぶことができるよう研修会を実施してきました。また、各校が1人1台端末等を含むＩＣＴ教育の実践を共有することができる仕組みを活用し、日々の授業改善と児童・生徒の情報活用能力の育成につながるようにしてきました。								
	R7(2025)	各学校の情報担当教員が、情報活用能力の育成及びＩＣＴ活用に関する情報や実践を学ぶことのできる研修会を実施してきました。また、全ての教員が活用できるように、情報担当教員が作成した授業等におけるＩＣＴの活用実践例を全校に共有しました。								
●特記事項（実績の補足）										
	行財政運営の視点				取組実績					
行財政運営	スクールサポートスタッフ、日本語指導員、時間講師等の活用により、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、教員の長時間労働の改善に取り組みます。				学校で多様な人材を活用することで、幼児、児童・生徒の教育的ニーズに応じた指導や支援を行うことができました。また、教員の在校時間を短縮するため、業務の平準化や見直しを進めるとともに、部活動の地域展開について、関係部署と連携して検討会を実施しました。					

2 社会ではどのような動きがあったか（社会環境等の変化）		人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。
チェック	チェック項目	
無	主要課題に関連する法改正があった（今後、法改正がある）	
無	主要課題に影響を及ぼす変化等があった（今後、変化等の可能性がある）	

3 成果や課題は何か（点検・分析）

1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じてないか」などを点検・分析します。

○グローバル社会で必要とされる能力の育成

英語力向上推進事業である体験型施設での学習や英語検定の受験により、児童・生徒が実践的に英語を使う機会が増えるとともに、英語を学ぶ意欲の向上につながっています。また、小学校はGETC juniorにより児童の英語活用能力を経年変化で確認することができ、教員の英語科の授業改善にもつながっています。

「話す力」向上プログラム事業では、児童・生徒が社会に出るうえで重視される「人前で話す力」の向上を目指し、モデル校では生成AIを組み込んだ対話型学習アプリでの授業実践を行いました。授業中に自信をもって自分の考えを伝えている姿を学校訪問する中で確認することができ、児童・生徒の「話す力」の向上につながっていると考えます。

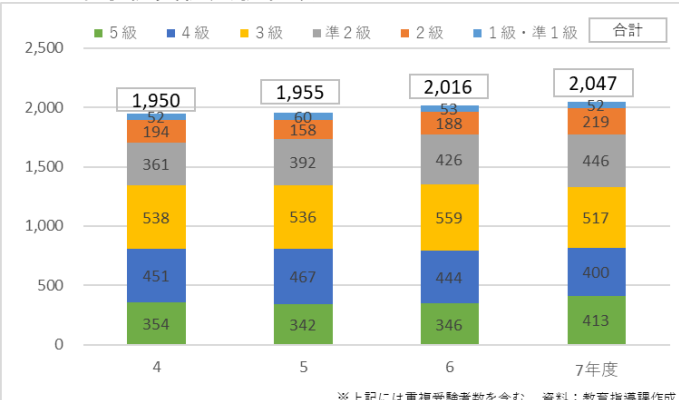
また、国際バカロレア機構が開発した教員研修を実施し、学校教育において、児童・生徒が探究心をもち、世界を理解し、持続可能な社会および平和な世界を築くことに貢献できる資質・能力の育成を図りました。

○Society5.0時代を見据えた教育の推進

NEXT GIGA推進委員会を立ち上げ、各校での実践内容を職員間で共有することで、授業における児童・生徒用タブレット端末の効果的な活用を推進することができました。

また、国が進めるGIGAスクール構想に基づき整備した1人1台のタブレット端末について、現在及び将来の学習形態に合わせ、駆動時間や動作環境に配慮した上で、更新しました。タブレット端末が使いやすくなり、日常生活の中で一層身近になったため、情報活用能力に含まれる情報モラル教育を年間を通して各校で計画的に実施し、情報社会で適切に行動するための態度や考え方を育んでいく必要があります。

●区立中学校英検受験者数



学年	5級	4級	3級	準2級	2級	1級・準1級	合計
4	354	451	538	361	194	52	1,950
5	342	467	536	392	158	60	1,955
6	346	444	559	426	188	53	2,016
7年度	413	400	517	446	219	52	2,047

※上記には重複受験者数を含む。資料：教育指導課作成

【SDGsの視点】

4 質の高い教育をみんなに



TGGや英語検定の機会を提供すること等により児童・生徒の英語を学ぶ意欲の向上につなげるとともに、ICT教育を学ぶ研修会を実施するなど、各校の実践方法を共有することで、児童・生徒が性別や障害の有無、国籍に関係なく、適切かつ効果的な学習効果をもたらし、無償かつ公正で質の高い教育を受けることができるよう包括的、効果的な学習環境を提供しました。

4 今後どのように進めていくか（展開）

3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、今後の戦略としての進め方を記しています。

英語力推進事業については、GTEC Juniorの経年変化の分析から課題が明確となったため、課題解決のための授業改善が必要となります。

また、国際バカロレア機構の教員研修を実施し、教員が研修で得た知見を生かした授業を実践することで、子どもたちの資質・能力の向上を図ります。

「話す力」向上プログラム事業については、児童・生徒のプレゼンテーション能力をより向上させるため、より効果的なアプリの活用方法を研究していきます。